



ASIA PACIFIC RESEARCH NETWORK BIENNIAL CONFERENCE 2017

RESISTING MILITARISM

BUILDING PEOPLE'S
DEMOCRACY

JAPAN | 6-7 MAY 2017

contact secretariat@aprnet.org for more information
National Memorial Olympic Youth Center



ミリタリズムに抵抗し、民衆の力と民主主義を築こう Resisting Militarism, Building People's Power and Democracy APRN 隔年会議

2017年5月6-7日

国立オリンピック青年記念センター

アジア太平洋は世界で最も軍事化された地域だ。この地域の国々は、2015年の軍事支出にあわせて約1兆6250億ドルを費やしている。¹ この地域の国々は武器の輸入を含めて、着実に軍事支出を増大させている。2011年から2015年まで、アジア太平洋は武器輸入の最大の目的地で、それは約4%増大した。アジア太平洋の軍事化は米国の軍産複合体に支えられており、彼らは進行中の紛争で金儲けをしている。米国は世界の兵器の売り上げの三分の一を占め、その大多数はアジア太平洋の諸国、とりわけダーイシュの台頭ゆえに西アジアの諸国に対してなされている。

軍需産業にとっての金儲けの源であることの他に、この大規模な軍事支出は、21世紀の始まり以来この地域を襲ってきた新自由主義グローバリゼーションのますます深まる危機の兆候である。繰り返される経済的、環境的、政治的危機に脅されて、グローバル・エリートたちは、戦争とミリタリズムの高まりを導きつつ、生産資源や市場に対する彼らの支配を維持し拡大するための試みを強めてきた。米国が率いる「対テロ戦争」の名の下で、資源戦争と大規模な軍事化がアジアから太平洋、そして地球上に絶えず広がり続けている。

この五年間にわたって、西アジアにおける「終わりなき戦争」は、米国のアジアへの軍事的・経済的ピボット（軸心移動）という戦略と共に、他の地域にも広がり始めてきた。トランプ新政権は相互防衛と経済的パートナーシップへの米国のコミットメントを再確認することで、アジアの同盟諸国の不確実性を和らげようとしている。トランプ大統領がすでに莫大な額である軍事予算を540億ドルにまで増加させようとしていることは、それが軍備増強のま合図であるがゆえ、アジア太平洋地域および世界にとって良くない兆候である。米国とこの地域の同盟諸国は中国に対する軍事的触手を伸ばし始めており、日本の軍国主義復活はこの地域での紛争の増大の兆候である。

新自由主義グローバリゼーションと軍国主義は互いを助長しあう。土地、鉱山、森林、エネルギー資源、その他の原材料や安価な労働力へのさらなるアクセスと支配を得ようとする強欲な意志は、多くの家族に立ち退きを迫り、女性たちをさらにひどい形態での暴力と搾取にさらしている。様々な多国間／二国間の貿易・投資協定に述べられている安価な労働力やその他の資源を搾取する企業の権利は、現場の軍事力をもってしばしば強められている。例えば外国の組み立てラインや縫製工場が操業しているフィリピンやカンボジアでは、生活できる賃金や人らしい労働条件を求める労働者のストライキを破壊するために軍隊や警察がしば

¹ <http://www.sipri.org/databases/milex>. 西アジア、ロシア、米国を含むデータ



しばしば導入されている。同様に、軍隊はしばしば鉱山操業や企業のプランテーションを取り囲むコミュニティを脅すために用いられている。

戦争と高まる軍事化によってもたらされる暴虐行為の他に、こうした状況は多くの国々で独裁的で軍事的なリーダーシップにとって都合のよいものとなっている。民衆の権利を主張するためにようやく手に入れたたたかひの成果は、民衆とその抵抗運動に対する容赦ない軍事行動によってすぐに奪われてしまう。外国との直接的な紛争に関与していなくても、アジア太平洋の多くの政府は、その政策に異議を唱え反対する人々を抑圧するために、自国の市民に対してますます軍事主義的アプローチを使うようになっており、それにより集会・結社の権利や表現の自由への抑圧を含めて人権侵害を引き起こしている。女性や子どもたちは不均衡にミリタリズムの影響を受けている。根深い家父長主義的価値観は女性や子どもたち搾取やレイプ、軍隊が引き起こすその他の形態の暴力の犠牲としている。

「持続可能な開発のためのアジェンダ 2030」やパリ気候協定は、ミリタリズムと戦争がきちんと解決しない限り、誰一人取り残さない変形開発や破壊から地球を救うといったその約束を果たさないだろう。軍需生産や侵略戦争を含む軍事行動からの排出はパリ気候協定でも認められていない。軍事主義的行動によって引き起こされる物理的なインフラのみならず民主主義の大規模な破壊は、持続可能な開発を実現するあたってなされてきたあらゆる進歩を覆しうる。

ピープルズ・パワー vs ミリタリズムと戦争

民衆運動は、抑圧に直面するなかで民主主義と人権の認識をもたらす恒久的な社会変革の力強い担い手だ。様々な場面での集団的闘争の力は、労働者としての権利、女性参政権、抑圧的な政権からの解放、さらには占領からの解放を民衆に勝ち取らせてきた。民衆主権の主張は運動を開始した様々な形態のたたかひのなかに生きている。民衆主権は、民衆こそが個人的・集団的権利を擁護するために使われるべき究極の権威の源であることを認識する。

民衆運動は実際、ミリタリズムと戦争に対して断固としてたたかひ続けている。占領のための戦争と闘う反帝国主義解放勢力、外国軍基地や軍事演習に抗議する民衆運動、土地を奪うために送られる国家の軍隊に立ちはだかる全アジア太平洋の先住民や農民、ミリタリズムと帝国主義戦争に対する市民社会からの叫び声や大衆的抗議はすべて、全世界の民衆が沈黙してられないことを示している。困難で危険な状況の中、民衆運動は鋭い分析と効果的なスキルを身につけることを必要としている。全世界のあらゆる抵抗の歴史から多くの教訓を学ぶことができるし、そうした教訓は国際化する闘争と連帯の精神を共有するためにも必要である。

この国際会議『ミリタリズムに抵抗し、民衆の力と民主主義を築こう』は、アジア太平洋リサーチ・ネットワーク（APRN）がアジア太平洋資料センターと共に、アジア共同行動日本連絡会議、日本国際法律家協会、青年法律家協会、アジア太平洋移民ミッションと協力して



組織する。この国際会議は生存と抵抗のための様々な課題と戦略に関する認識を共有するための空間を創り出すことで、ミリタリズムに対する民衆の抵抗を支持することを目的としている。それは連帯を築くためにも重要である。この取り組みはミリタリズムと戦争に対する地域規模のキャンペーンを発展させ、開始する場であり、会議の後にはそれは共同で実施されることになるだろう。

国際会議『ミリタリズムに抵抗し、民衆の力と民主主義を築こう』は、以下の問題に回答し、詳しく説明しようとする：

1. この地域でのミリタリズムと戦争に関する現在の状況はどうなっているか？何がその推進役となっているのか？誰がそれを演じているのか？現在の状況はこの地域におけるかつての紛争や戦争とどのように異なっているのか？
2. この地域に対する、とりわけ女性や子どもたち、先住民、労働者、その他の周縁化された階層に対するミリタリズムと戦争の影響はどのようなものか？
3. この地域の民衆はミリタリズムと戦争に対してどのようにたたかっているのか？ミリタリズムと戦争に対する地域規模のたたかいを強化しうる、すでにあり可能なイニシアチブは何か？APRNはいかにこのたたかいに貢献できるか？

会議の目的：

1. 会議での調査にもとづく発表を通してこの地域におけるミリタリズムと戦争の背景に
いる推進者とインパクトについての分析と理解を深めること。
2. ミリタリズムと戦争に対するオルタナティブの追求における指針となる目標としての民
衆主権という概念について詳しく説明すること。
3. ミリタリズムに抵抗し、民衆主権を訴えるための研究と訴えるスキル、戦略、活動家の
力量の強化に貢献すること。
4. 対話と交流を通してこの地域の反戦活動家や共闘関係者の中での連帯と連合を強化する
こと。

会議の結果として期待されるのは、（1）各国／地域／コミュニティーでのミリタリズムの調査に関するスキルを備えた運動家を生み出すこと、（2）地域においてミリタリズムと戦争に反対するキャンペーンを強化するための共通のイニシアチブ、（3）ミリタリズムに抵抗し、民衆主権を推進する会議声明を含む会議報告、である。



暫定的なプログラムと発題者案

	一日目：5月6日
9:00-9:15	文化パフォーマンス
9:15-9:30	歓迎あいさつ 受け入れ国の代表 マルジョリ・パミントゥアン（APRN 事務局長）
9:30-10:45	ミリタリズム、戦争、民主主義の政治経済学についての基調報告 ＜ここではトランプ政権とヨーロッパでの極右の台頭がアジア太平洋にどのような影響を与えるかを含め、ミリタリズム、戦争、民主主義の政治経済学について討論する発言者を招待する＞ サミール・アミン（オルタナティブに関する世界フォーラム） マリア・テレサ・ネラ・ラウロン（APRN 議長） 飯島滋明教授（名古屋学院大学）
10:45-11:00	休憩
11:00-12:00	全体討論：アジア太平洋におけるミリタリズムと侵略戦争 ＜ここではこの地域におけるミリタリズムと戦争の全体像／状況が提示される。討論についてはアジア太平洋の様々な地域での軍事主義的文化、外国軍のプレゼンスや基地、ミリタリズムと安全保障、国内外での軍備増強、安全保障政策と対反乱作戦などのテーマを議論する予定＞ ミリタリズムと侵略戦争に関する地域的状况 <ul style="list-style-type: none">● 東北アジア 田中滋（PARC）● 西アジアと北アフリカ● 東南アジア チャム・ペレス（女性資料センター）● 中央アジア ウルナ・ゴンボスーレン（CHRD）● 南アジア● 太平洋 司会：マリア・テレサ・ネラ・ラウロン（APRN 議長）
12:00-12:30	パネル・ディスカッション：日本に焦点をあてて ＜ここでは日本の国会議員や市民社会団体を招き、日本の具体的な状況について討論する＞ 糸数慶子参議院（沖縄県選出） 猿田佐世弁護士（新外交）
12:30-13:30	昼食



13:30-14:30	<p>トークショー：ミリタリズムと戦争の影響</p> <p><ここでは様々な階層、とりわけ周縁化された階層に対するミリタリズムと戦争の影響を討論する。以下は討論テーマの案></p> <ul style="list-style-type: none">• 女性と戦争• 移民と難民• 先住民 ジェーン・リングバワン (CDPC)• 食糧主権・資源強奪 <p>司会：レイ・アシス (APMM)</p>
14:30-17:30	<p>相互交流セッション／ワークショップ</p> <p><一日目のワークショップは軍国主義と戦争に関するテーマで、以下のテーマが予定される></p> <ul style="list-style-type: none">• 知識構築：この地域におけるミリタリズムと民衆民主主義に関する重要問題についての新しい分析と理解• この地域のミリタリズムの研究／調査に関するスキルの共有 <p>ワークショップの予備リスト</p> <ul style="list-style-type: none">• ミリタリズムと貿易のつながり• 環境／気候と戦争 (Center for Environmental Concerns/Japan Young Lawyers Association – JYLA)• ミリタリズムのただ中での民衆の権利• 軍国主義と戦争に対する女性や少女の組織化• 平和で包括的な社会に関する SDG16 (持続可能な開発目標) の監視• ミリタリズムと移民• アジア太平洋における軍事基地
18:30-20:30	<p>ソリダリティー・ナイト／夕食会</p> <ul style="list-style-type: none">• 抵抗の形態としてのアート (文化パフォーマーやビジュアル・アーティストを招待する)• ピープルズ・パワー—ミリタリズムと戦争への挑戦と抵抗 — 諸発言<ul style="list-style-type: none">• 日本からの発言者• 中東・北アフリカからの発言• 韓国からの発言• フィリピンからの発言• ミリタリズムについての APRN の書籍の出版
	<p>二日目：5月7日</p>
8:30-9:15	<p>基調報告</p> <p>アズラ・サイード ルーツ・フォー・イクオリティー／国際女性同盟 翁長雄志 沖縄県知事 (to be confirmed) あと1人</p>
9:15-10:15	<p>ワールドカフェ・セッション：ミリタリズムと戦争に対する戦略の構築</p> <p><ワールドカフェ・セッションではミリタリズムと戦争に抗する戦略、</p>



	共同キャンペーンの構築、以下のテーマに沿ったイニシアチブについて 討論する> <ul style="list-style-type: none">● 抵抗への女性の動員● 軍事基地・軍事演習への抵抗● 軍事化された状況に対する創造的な戦略 (スナック付き)
10:15-10:45	ワールド・カフェ・セッションのまとめのための全体会議
10:45-11:45	全体パネル・ディスカッション：民衆の民主主義と主権 vs ミリタリズムと戦争 参加民主主義 vs ミリタリズム (弁護士 笹本 潤 (日本国際法律家協会 JALISA)) 民主主義と開発 民衆主権と民衆の力に根差した民主主義 アントニオ・トゥーハン (IBON インターナショナル)
11:45-12:30	会議声明のための全体会議
12:30-13:00	閉会あいさつ 文化パフォーマンス
13:00-14:00	昼食
14:00-17:00	横浜へ移動、行動
18:30-20:00	戦略セッション：ワールド・カフェの結果に関するまとめと今後

〈お問い合わせ〉

東京事務局

アジア太平洋資料ネットワーク (APRN) 事務局

secretariat★aprnnet.org

tkyosecretariat★gmail.com

*★の部分を実際の変換記号@に変えて送信してください。

*お問い合わせ先は青法協本部事務局で加筆しました。